

ひび挑戦!

インターンシップ生との活動

8月から9月にかけて、大学1年生を議員インターンシップ生として受け入れ、様々な活動に参加してもらいました。なかでも「もしあなたが日本の総理大臣ならば」という設定のもと、30年後の日本の「ビジョン」を描きながら、10年後の「政策」・「予算案」を提案する、政策立案コンテスト「未来国会2022」では、最近の食料品高騰問題を掘り下げ、「食料自給率」向上を目的とした「若者の農業従事」、「農作業省力化支援」、「耕作放棄地の整備」の3つの政策を提案、見事に発表してくれました。詳細は私のYouTube動画をご覧くださいと幸いです。



日比たけまさソングで市内を回っています

現在、前回ご紹介した日比たけまさオリジナルソングを流しながら、三輪バイクで市内各地を回っています。お気軽にお声がけいただくと幸いです。よろしくお願いいたします。

- ♪ 未来にむけたものづくり 未来につなぐ ひとつづくり♪
- ♪ 未来をひらく まちづくり さあみんな 明日へとつなげよう♪
- ♪ ひび挑戦 日比たけまさ♪
- ♪ 明日の未来ひらく みんなで築こう 夢の春日井を♪
- ♪ ひび挑戦 日比たけまさ♪
- ♪ 明日の未来ひらく みんなで築こう 明るい愛知を さあ一緒に♪



ぜひお聴きください



新しいリーフレットを作成

3期目の愛知県議会議員としての任期も残りわずかとなりました。そこで、今期の3年半にわたる活動実績やこの間に感じた思いを、新たなリーフレットにまとめました。紙面には概要を記載し、詳細をインターネット上でご確認頂けるよう、QRコードを付記しています。ぜひスマートフォンをかざしてください。



ひび挑戦! ~家族編~

【春日井まつり】3年ぶりのリアル開催となった春日井まつり。2日間とも好天に恵まれ、多くの人で賑わいました。私も家族全員で思う存分まつりを楽しみました。特に子どもたちは、様々なブースやイベントを通じ、貴重な体験ができました。お兄ちゃんはお工作系のブースが大好きで、初めて釘と金槌を使って、椅子づくりに挑戦。思った以上にしっかりと釘を打ち込む姿に頼もしさを感じました。妹はかわいらしい刺繍のバッグやお菓子づくりのブースにとびつき、お気に入りのバッグができたこととても喜んでいました。感染対策を講じた上での3年ぶりの開催には、多くの困難があったことと思います。関係者の皆様、本当にありがとうございました。



下記住所に事務所を構えておりますので、お気軽にお立ち寄りください。

- 住所 春日井市中央台6-7-4
- 電話 0568-70-0594
- FAX 0568-70-0580
- HP <https://www.hibi55.com/>

YouTube
による県政報告も
ぜひご覧ください!



日比たけまさ県政レポート 第46号

発行元:日比たけまさ事務所 春日井市中央台6-7-4 TEL:0568-70-0594 発行責任者:日比 たけまさ

新型コロナウイルス感染症の先を見据えて

9月21日から10月14日までの日程で、9月定例議会が開かれました。

新型コロナウイルス感染症への対応を継続しながら、経済活性化や物価高対策への取組が必要となるなか、一般会計総額995億余円の補正予算案を始め、条例の一部改正など40議案を集散的に審議し、可決成立させました。

今回の補正予算には、①新型コロナウイルス感染症対策の充実、②市町村が実施する高齢者等に対するインフルエンザワクチンの定期接種事業支援、③原油価格・物価高騰による影響を緩和する施策、④2025年4月開校予定の中高一貫校(4校)の中学校校舎等の基本設計、⑤道路標識・標示の更新、信号灯器のLED化などが含まれています。



代表質問 天野 正基 幹事長(小牧市選出 4期)

【Q】 2019年2月の知事選挙の際に掲げた施策「あいち重点政策ファイル330プラスI」の進捗状況に対し、自身はどのように評価しているのか、また、去就を含め今後どのように取り組んでいくのか伺う。

【知事】 任期4年間で330項目すべての政策の実現を目指し、全力で取組を進めてきた。この間、新型コロナウイルス感染症が全世界に広がり、県民の皆様の生活や経済活動に大きな影響を与えるなか、感染状況を的確に把握・分析しながら、医療提供体制、検査体制の充実・強化、ワクチン接種体制の整備などに取り組んできた。そして、コロナを克服し、安心な日常と活力ある社会経済活動を取り戻すだけでなく、愛知の経済・産業力を強化し、若者・女性の雇用を増やし、人づくりを進め、「日本一元気な愛知」と豊かさを実感できる県民生活の実現を目指して取り組んできた。その結果、330項目いずれの政策も着手をし、着実に実績を積み重ねてきたところである。

今後も愛知が日本の成長エンジンとなり、我が国の発展を力強くリードしていくためには、グローバル化の進展やそれに伴う感染症リスクの増大、デジタル技術の急速な発展などの変化に的確に対応し、イノベーションを巻き起こしていかなければならない。そのためには、今年のジブリパーク開園に続いて、2024年10月オープンを目指す「STATION Ai」を始め、愛知独自のスタートアップ・エコシステムの形成をさらに促進するとともに、2025年度の愛知県新体育館、基幹的広域防災拠点のオープン、2026年度のアジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催、2027年度のリニア中央新幹線開業、中部国際空港第二滑走路の供用開始など、日本の未来を形作るビッグプロジェクトを成功に導き、愛知の更なる飛躍につなげる事が重要である。

以上、「あいち重点政策ファイル330プラスI」の取組成果と、県政運営について私の考えを述べたが、それぞれの場面において新政あいち県議団及び県議会と協働して、共同で取り組んできたものと考えている。これからも引き続き十二分に連携して、県民の皆様から与えられた任期をしっかりと全うし、さらに日本をリードする未来の愛知の発展にも責任を担っていきたいと考えている。



一般質問

9月30日の本会議にて一般質問を行いました！

今回は3つの項目、1.頻発化・激甚化する自然災害に対する「防災・減災」への取組、2.警察の広報活動、3.高齢者の社会活動推進について質問しました。

始めに、防災・減災への取組については、さらに3つの小項目に分けて、ア 災害ボランティア団体等との情報共有、イ 河川の草刈りや樹木伐採の地域との連携、ウ あいち森と緑づくり事業による防災・減災対策の現状と今後について確認しました。このうち、あいち森と緑づくり事業を活用した防災・減災、ライフライン確保について、農林基盤局長からは「台風等に伴う倒木による停電を防ぐため、3年間で110kmの道路沿いの間伐を実施した」との答弁があり、また大村知事は2019年に千葉県で発生した93万戸に及ぶ大停電を挙げ「今後も着実に間伐を進める」と力強く述べました。

次に、警察の広報活動については、この夏全国で公開された阿部寛さん主演の映画「異動辞令は音楽隊！」が、愛知県警察音楽隊のYouTube動画から誕生したことに触れ、映画を活かした広報およびコロナ禍での広報活動について質問しました。これに対し、警察本部長からは「メディアにも大きく取り上げられ、音楽隊の認知度が高まるとともに、防犯広報など警察活動の効果的な広報を行うことができた」、「コロナ禍により多人数が密集するような広報活動を自粛する一方、SNS広報に力を入れ、2021年のYouTube公式チャンネルの動画数は190本と、コロナ禍以前の約7倍に増加した」、「警察本部の広報センターでは県政150周年記念に合わせ、県警察の150年の歴史を9月から紹介している。今年度中には完全リニューアルを行い、一層充実した場所を提供する」との答弁がありました。

最後に、高齢者の社会活動推進については、2020年度から県内12市町において実施し、今年度が最終年度となっている「就労・生きがいづくり」、「多世代交流」、「移動支援」の3テーマのモデル事業の取組状況と課題、今後について質問しました。福祉局長はこれまで各モデルで実施してきた内容や実績および課題を述べ、今後について「活動報告会」や「活動事例集」を通して県内全域での横展開を図るとともに、来年度は「愛知県高齢者福祉保健医療計画」の次期計画を策定する予定であり、効果的な取組となるよう反映していきたい」と答弁しました。



クレーン等を使用した伐採の状況



その他の一般質問

高橋 正子 議員(一宮市選出5期)

「かかりつけ医」を持つことについての現状と今後の普及への取組、75歳以上の新しい免許更新制度と高齢ドライバー対策について

安藤 としき 議員(清須市、北名古屋市及び西春日井郡選出4期)

不登校児童生徒やヤングケアラー児童生徒への支援の取組、学校部活動の地域移行、新川東部流域下水道のゲート閉塞事故の原因究明と再発防止対策について

鳴海 やすひろ 議員(名古屋市中村区選出2期)

企業におけるカスタマーハラスメント対策、海や水辺を活用した観光振興の取組、水上オートバイによる危険行為等に関する対策について

桜井 秀樹 議員(豊田市選出1期)

産業におけるカーボンニュートラルの実現に向けて、安全で快適な自転車通行空間整備について

松本 まもる 議員(名古屋市緑区選出1期)

県営都市公園の更なる魅力作り、「子どもが輝く未来基金」について

小木曾 史人 議員(あま市及び海部郡選出1期)

海部地域の液状化対策、県立高等学校の魅力化・特色化、後部座席シートベルトの着用率向上の取組について

日比たけまさ県政レポート

委員会関係

8月下旬、新政あいち県議団のメンバーで北海道にあるスタートアップ企業「株式会社岩谷技研」と産官学連携施設「公益財団法人北海道科学技術総合振興センター」を調査しました。そこで、調査内容も踏まえながら、本県のスタートアップ及びイノベーション創出について質問しましたので、概要を3点記します。



気球による宇宙旅行を目指す岩谷技研

各地でスタートアップ支援が行われ、熾烈な競争が展開されている。本県の取組における強みを伺う。

強みは大きく二つある。一つ目は、圧倒的なモノづくりの集積を背景に地域のモノづくり企業とスタートアップとの共創、オープンイノベーションを推進することができること。二つ目は、グローバルネットワークとして、知事自らが世界中の先進地に出向き、現時点で5か国14大学・支援機関との具体的な連携を実現していることである。

新たな産業創出に向け、若者の起業家教育が大切である。取組を伺う。

小学生、中学生、高校生向けの3つの起業家育成プログラムを実施した。年齢によるレベルの違いはあるが、プログラムの趣旨は、日常生活から課題を見つけ出し、解決するためのビジネスを考案するというもので、終了後のアンケートでは「将来起業したい」と回答した学生が、小学生61%、中学生83%、高校生82%と将来に期待が持てる結果となっている。



プログラム実施風景

スタートアップ・エコシステムの形成として県内各地との連携が求められるなか、パートナー拠点となる地域にとってのメリットや効果を伺う。

県は「東三河スタートアップ推進協議会」をパートナー拠点第1号と位置づけ、県の統括マネージャーを配置し、スタートアップ・エコシステム構築を後押しすることとした。現在、SNS上で展開する「東三河起業家コミュニティ」は、わずか1年強で地域内外のスタートアップや支援機関1,000名以上が登録する規模となっている。また、域内8市町村が連携した実証実験誘致のサポートや勉強会、エンジェル投資家とのネットワーク構築など、大小様々なプロジェクトが立ち上がっている。協議会からは「スタートアップを支援する土壌が生まれつつある」、「地域経済の活性化に繋がる事例も出ている」といった前向きな意見が多く寄せられている。



東三河地域交流プログラム

「令和5年度 施策及び当初予算に対する提言」を知事へ提出

I 感染症問題を克服するために

- 1 新型コロナウイルス感染症対策を含めた感染症全体への対策
- 2 コロナ禍における中小企業・小規模事業者支援の推進
- 3 コロナ禍で長期化する雇用情勢の悪化に対する雇用の維持・創出
- 4 外国人観光客を含む県内観光消費喚起に向けた取組の推進



II 安全・安心を確保するために

- 1 大規模自然災害に備えた社会資本整備の推進
- 2 交通事故防止対策の推進
- 3 農林水産施設の災害対策・老朽化対策・予防保全の推進

III 更なる愛知の発展のために

- 1 あいちDX推進プラン2025とICT利活用の推進
- 2 第20回アジア競技大会・第5回アジアパラ競技大会の推進
- 3 Aichi-Startup戦略及び革新事業創造戦略の推進
- 4 スマート農業の推進

IV カーボンニュートラル社会の実現のために

- 1 地球温暖化防止の取組の推進
- 2 循環型社会の形成に向けた取組の推進

V 誰もが活躍できる社会の実現のために

- 1 差別のない、人権尊重の社会づくり
- 2 男女共同参画社会の実現
- 3 少子化対策の推進
- 4 教員の働き方改革と良好な教育環境の整備